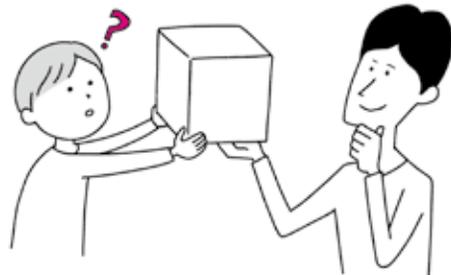
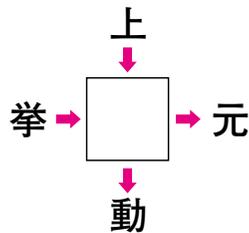


4 すぐに教えない

☑ この問題を、お子さんにどう解かせますか？

「すぐに教えない」という見出しをみて、「教えないことが教え方のコツ？」と思われた方もいるかもしれません。でも「すぐに教えない」ということは、指導において重要です。

例えば、次の□にあてはまる漢字を考えてください。



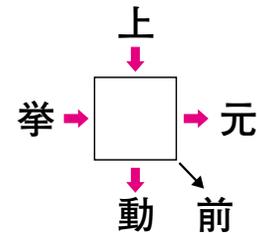
この問題に苦戦している子どもがいるとします。そんなとき、ヒントとして「物事のやり方がうまくできることを何と言うかな？」のように言えば、子どもは、上手(答えは「手」という言葉を思いつくでしょう。これは一見スムーズに教えているように見えて、あまり良い教え方とは言えません。なぜなら、子どもから「自分自身で考える機会をかなり奪っている」とも言えるからです。

☑ 「教えない」ことが最善策であることも

教えようとする前に、まず「ヒントがほしい？」と一言確認をするのが大事です。こう尋ねると、子どもは「もうちょっと考えたい」や「うん、ヒントちょうだい」など、さまざまな返答をしてくれます。

「もうちょっと考えたい」と言ってくれたときには、子どもの希望を最大限尊重してあげましょう。**子どもが自分1人で考える力を育てるために、「教えない」ことがベストの選択であるケースもあるのです。**

子どもがヒントをほしがったときも、先ほどのように、すぐに答えがわかってしまうようなヒントは望ましくありません。例えば、次のように、ひとつの熟語を増やす方法もあります。



それでも、子どもが苦戦しているようなら、「体の一部を表す漢字が

入るよ」というように、**少しずつ答えに近づくヒントを出していく**ことが求められます。ヒントの出し方ひとつにもこだわっていくことが、教え方のレベルを上げることにつながるのです。



POINT

- ・「すべてを教えること = 子どもから考える機会を奪うこと」になることがある。
- ・正解に近づくための最低限のヒントを出す習慣をつけよう。

5 様子を見る

☑ 教えるときに大事なものは「言葉」だけではない

教えるときに「言語（言葉）でのコミュニケーション」が大事なものは言うまでもありませんが、「**非言語でのコミュニケーション**」もかなり大切です。

教えるときの非言語コミュニケーションの例

（子どもの）表情、仕草、目線、姿勢、話す速度、声の大きさ、など。

子どもが問題を解いているときの様子や仕草、解説を聞いているときの子どもの表情などを、指導中にきちんとみているでしょうか。これらの**非言語的な部分から、子どもの理解具合や心理状況をつかめることが多い**のです。ここでは、いくつかの例を挙げて、お話ししていきます。



1 真の得点力を身につけよう

☑ お子さんが将来、社会人になってからも必要な力

得点力という言葉だけをみると、その場しのぎのテクニックのような印象を持たれる方もいるかもしれません。しかし、このPARTの内容は、単なる、高得点を取るためのテクニックの話に留まりません。**お子さんが将来、仕事をするにあたっての「処理能力」にもつながる、本質的な力**についてお話ししていきます。

将来、どんな仕事をするにしても、「ある課題を、決められた時間内で正確に実行する能力」は必要です。作業のスピードと正確さが向上すれば、1日にできる仕事の量も当然増えます。一方、仕事でミスが増えれば、職場のチームに迷惑をかけるだけでなく、自分自身の評価が下がることになりかねないでしょう。

ミスを最小限にして、すばやく正確に仕事する姿勢を継続すれば、それは自分の実力や、まわりからの信頼を高めることにもつながります。このような処理能力は、小学生にとっては「得点力」と言い換えることができますし、子どものうちから伸ばしておける力でもあります。

☑ 得点力をどんどん伸ばしていこう！

同じ能力を持った生徒でも、「テストでの点数の取り方（社会人なら、効率的な仕事の仕方）」を知っているかどうかで、結果に差がつくこと

があります。学校の授業では、このような「得点力」の伸ばし方は、あまり教えてくれません。これは一生役立つ力ですから、親御さんからお子さんが小学生のうちに教えることをおすすめします。「**お父さん、お母さんの教えてくれた方法でテストを受けたら、良い点が取れたよ**」と報告してくれたら、それは親子ともうれしいことであり、ひいては、子どもの学習へのモチベーションにつながることもあるでしょう。

学校や塾で実施されるテストは、この「得点力」を伸ばすのに、絶好の機会です。そのため、このPARTでは、主に「**テストの取り組み方**」についてお話しします。「**テスト前から、このPARTに書いてある内容をできるだけ実践できるようにし、テストが終わってから、実践できたかどうかを親子で検証する**」というルーティンを繰り返していけば、**得点力は確実に上がっていくはず**です。今日からでも行なえる方法を紹介していきます。



POINT

- お子さんが将来、仕事をするときにも「得点力」が役に立つ。
- 「PART5の内容を把握 → テスト → 親子で検証」のルーティンを繰り返せば、得点力は上がっていく。